

令和 6 年度

さっぽろの文化行政



エネス《Airship Orchestra》 ©SIAF2024 Photo by KOMAKI Yoshisato

札幌市市民文化局文化部

はじめに

文化芸術は、人々の創造性を育み、心の豊かさを生み出すとともに、まちの魅力や個性を形作る上で欠かせない重要な要素であり、国際化・情報化の急速な進展やこれに伴う価値観の多様化など、大きく変化し続ける社会情勢の中であって、その果たすべき役割は、ますます重要なものと位置付けられるようになっていきます。

国では、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される多様な価値を、文化芸術の継承、発展及び創造に活用するため、文化芸術振興基本法を改正し、「文化芸術基本法」を平成 29 年 6 月に策定しました。また、当該法律に基づき展開する施策についての基本的な計画である「文化芸術推進基本計画」（第 1 期：平成 30 年度～令和 4 年度、第 2 期：令和 5 年度～令和 9 年度）を策定し、文化芸術の本質的価値及び社会的価値・経済的価値を明確化するとともに、推進すべき重点取組などを示しています。

札幌市では、このような流れも踏まえ、第 4 期となる文化芸術基本計画を令和 6 年 6 月に策定しました。文化芸術と他分野との連携を一つの柱としたこの計画では、文化芸術のさらなる継承・発展・創造のみならず、私たちのまちの魅力をより一層高めることを目指しています。

この小冊子は、令和 5 年度の事業を中心に作成しておりますが、令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置付けられ、人々の生活や文化芸術活動が感染症拡大前の状況へ大きく回復を見せた年となりました。

今後も、さらに市民一人一人が多彩な文化芸術に触れ、また発信できるような文化芸術施策を推進していきます。

本書が札幌市の文化芸術に関する取組への理解を深めていただくための一助となれば幸いです。

目 次

「さっぽろの文化行政」の歩み	1
組織図及び職員数	3
文化関係予算の概要	4

I 文化芸術事業の概要

1 札幌芸術賞・札幌文化奨励賞	5
2 市民ロビーコンサート	7
3 主な文化芸術事業・団体への補助	9
4 写真文化振興事業	11
5 パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌 (PMF)	12
6 さっぽろアートステージ	13
7 サッポロ・シティ・ジャズ	14
8 子どもの文化芸術体験事業	15
9 障がい者向け体験事業	16
10 文化芸術鑑賞促進事業	17
11 札幌国際芸術祭	18
12 札幌演劇シーズン	20
13 札幌市博物館活動センター事業～博物館整備推進事業	20
14 学校開放（文化活動）	23
15 名義後援	24
16 文化芸術振興活動への助成	24
17 創造都市ネットワーク	26

II 文化芸術施設の概要

1 札幌芸術の森	27
2 札幌コンサートホール (Kitara)	34
3 札幌市教育文化会館	39
4 札幌市民ギャラリー	43
5 本郷新記念札幌彫刻美術館	45
6 札幌市民交流プラザ	49
7 さっぽろ天神山アートスタジオ	55
8 札幌大通地下ギャラリー500m美術館	58
9 大通情報ステーション	59
10 あけぼのアート&コミュニティセンター	60
11 ターミナルプラザことパトス	62

III 文化財事業・施設の概要

1 札幌市の文化財の保存・活用と伝統文化の継承のための施策	64
2 文化財の種類、指定・選定・登録	70
3 文化財の体系	71
4 指定文化財、登録文化財及び地域文化財一覧	72
5 文化庁所有文化財の管理及び活用状況	76
6 さっぽろ・ふるさと文化百選	77
7 埋蔵文化財	80
8 札幌市埋蔵文化財センター	81
9 体験学習施設「丘珠縄文遺跡」	82
10 札幌市内郷土資料館等一覧	83

IV 関係団体の概要

1 公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	84
2 公益財団法人札幌市芸術文化財団	85

V 札幌市文化芸術基本条例

VI 札幌市文化芸術基本計画

「さっぽろの文化行政」の歩み

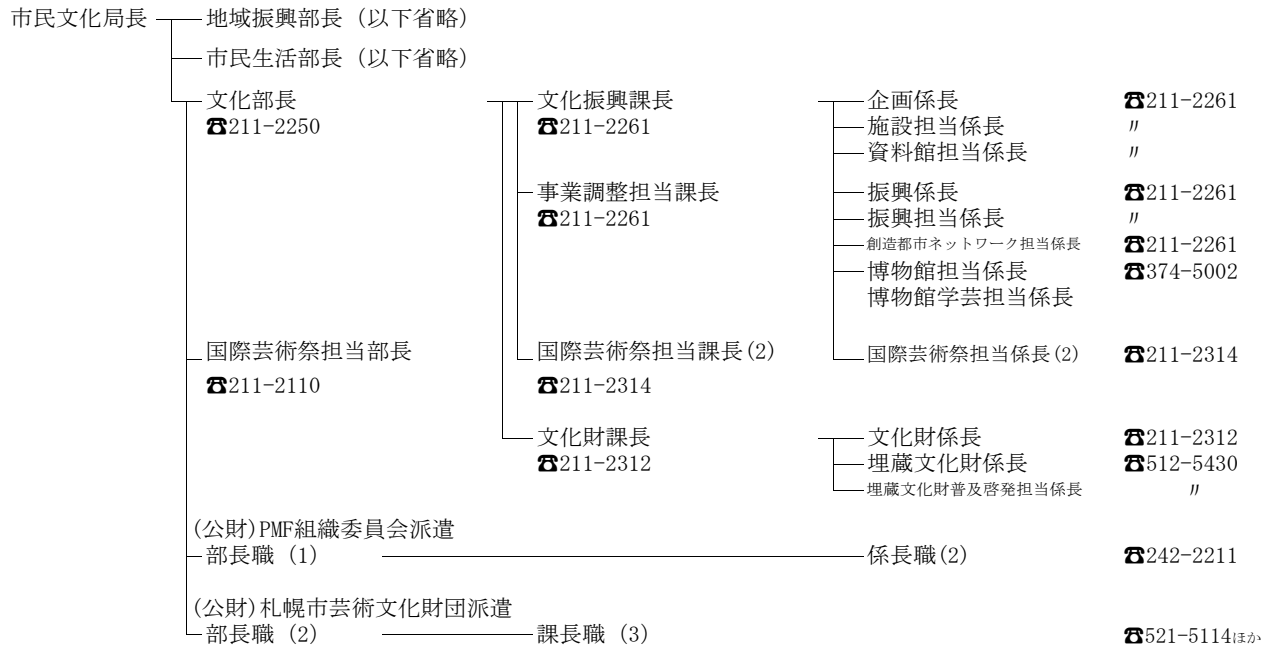
西暦	年 号	月	事 柄
1948	昭和23年	10	第1回市民文化祭（現 札幌市民芸術祭）開催
1959	昭和34年	10	札幌市文化財保護条例 制定
1962	昭和37年	3	財団法人札幌交響楽団 設立
1972	昭和47年	11	札幌市民芸術賞 創設
1973	昭和48年	11	札幌市民文化奨励賞 創設
1977	昭和52年	4	財団法人札幌市教育文化財団 設立
1978	昭和53年	4	芸術文化振興基金（現 文化芸術振興基金）創設
1979	昭和54年	2	第1回市民コンサート 開催
		5	文化活動練習会場の学校開放開始（中央小学校）
		10	第1回ニッセイ名作劇場（現 こころの劇場）開催
1980	昭和55年	7	財団法人札幌彫刻美術館 設立
		8	第1回市民ロビーコンサート 開催
1984	昭和61年	4	財団法人札幌芸術の森 設立
1988	昭和63年	11	さっぽろ・ふるさと文化百選 選定
1989	平成元年	4	文化課（現 文化財課）が教育委員会から市長部局へ移管
1990	平成2年	6	第1回パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）開催
1991	平成3年	1	パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 設立
1997	平成9年	3	「札幌市芸術文化基本構想」策定
1999	平成11年	4	（財）札幌芸術の森と（財）札幌市教育文化財団を統合。（財）札幌芸術文化財団設立
2001	平成13年	1	「札幌市博物館計画推進方針」策定
		6	札幌市民芸術賞・札幌市民文化奨励賞を札幌芸術賞・札幌文化奨励賞に賞名変更
2002	平成14年	4	パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会が財団法人化
2004	平成16年	4	機構改革により市民局生活文化部から観光文化局文化部となる
2006	平成18年	3	「創造都市さっぽろ（sapporo ideas city）」宣言
2007	平成19年	4	札幌市文化芸術振興条例 施行
			（財）札幌彫刻美術館が（財）札幌市芸術文化財団と統合
		7	サッポロ・シティ・ジャズが初開催
2009	平成21年	1	文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」受賞
		3	「札幌市文化芸術基本計画（平成21～25年度）」策定
2010	平成22年	8	（財）パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会が公益財団法人化
2013	平成25年	4	（財）札幌市芸術文化財団が公益財団法人化
		11	ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟認定
2014	平成26年	7	札幌国際芸術祭2014 開催
2015	平成27年	1	「札幌市文化芸術基本計画（平成26～30年度）」策定
		3	「（仮称）札幌博物館基本計画」策定
2016	平成28年	4	機構改革により観光文化局文化部から市民文化局文化部となる
2017	平成29年	8	札幌国際芸術祭2017 開催
		12	札幌市文化芸術振興条例を改正し、札幌市文化芸術基本条例を制定
2019	令和元年	6	「札幌市文化芸術基本計画（令和元～5年度）」策定
2020	令和2年	9	「文化芸術未来会議」設置
2021	令和3年	2	札幌国際芸術祭2020特別編 開催
2024	令和6年	1	札幌国際芸術祭2024 開催
2024	令和6年	6	「札幌市文化芸術基本計画（令和6～10年度）」策定

「さっぽろの文化行政」の歩み（施設）

西暦	年 号	月	事 柄
1977	昭和52年	7	札幌市教育文化会館 オープン
1980	昭和55年	10	札幌市教育文化会館大ホール オープン
1981	昭和56年	6	札幌彫刻美術館 オープン
1982	昭和57年	2	札幌市民ギャラリー オープン
1984	昭和59年	4	札幌芸術の森 建設開始
1986	昭和61年	7	札幌芸術の森 一部オープン
1990	平成2年	9	札幌芸術の森美術館 オープン
1991	平成3年	3	札幌市埋蔵文化財センター オープン
1993	平成5年	4	札幌市写真ライブラリー オープン
1995	平成7年	9	札幌市資料館内に「おおば比呂司記念室」設置
1997	平成9年	7	札幌コンサートホール「Kitara」 オープン
1999	平成11年	7	札幌芸術の森整備完了・全面オープン
2001	平成13年	11	札幌市博物館活動センター オープン
2003	平成15年	5	札幌市教育文化会館 リニューアルオープン
2004	平成16年	4	芸術の森野外ステージ リニューアルオープン
2007	平成19年	4	札幌彫刻美術館が本郷新記念札幌彫刻美術館に改称
		10	観光文化情報ステーション オープン
2008	平成20年	9	芸術の森野外美術館に「佐藤忠良記念子どもアトリエ」 オープン
2009	平成21年	11	あけぼのアート&コミュニティセンター オープン
		12	さっぽろ芸術文化の館（旧北海道厚生年金会館） オープン
2010	平成22年	1	札幌市写真ライブラリー 閉館
2011	平成23年	11	札幌大通地下ギャラリー500m美術館 常設化
2014	平成26年	4	札幌市資料館が教育委員会から観光文化局へ所管換となる
		5	さっぽろ天神山アートスタジオ オープン
2015	平成27年	1	札幌市民交流プラザ 建設開始
		4	観光文化情報ステーションが大通情報ステーションに改称
2016	平成28年	4	札幌市博物館活動センターが中央区から豊平区に移転・再オープン
2018	平成30年	5	丘珠縄文遺跡 オープン
		9	さっぽろ芸術文化の館（旧北海道厚生年金会館） 閉館
		10	札幌市民交流プラザ オープン
2024	令和6年	3	大通情報ステーション 廃止

組織及び職員数

1 組織(令和6年6月1日現在)



2 職員数(令和6年6月1日現在 現員数)

局	部	課	係	事務職員	技術職員	合計
市民文化局	文化振興課	文化振興係	企画係	(※1) 7		7
			施設担当		4	4
			資料館担当		1	1
			振興係	(※2) 7		7
			振興担当	1		1
			創造都市ネットワーク担当	1		1
			博物館担当	3		3
			博物館学芸担当	1		1
			国際芸術祭担当	(※3) 8		8
		文化振興課 計			28	5
	文化財課	文化財係	文化財係	(※2) 5		5
			埋蔵文化財係	10		10
			埋蔵文化財普及啓発担当	1		1
		文化財課 計			16	0
	派遣	(公財) パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会		(※4) 3		3
		(公財) 札幌市芸術文化財団		(※5) 3	(※6) 2	5
		派遣 計		6	2	8
市民文化局 文化部 計				50	7	57

※令和6年6月1日現在の現員数を記載。

※1 部長職1・課長職1を含む

※4 部長職1・係長職2

※2 課長職1を含む

※5 部長職1・課長職2

※3 部長職1・課長職2を含む

※6 部長職1・課長職1

文化関係予算の概要

■ 令和5年度予算

(単位：千円)

科	目	当初予算額	事業内容
総務費			
	市民生活費		
	文化芸術振興費	5,360,291	文化芸術振興費 1,538,324 文化芸術推進費 1,343,324 (事業例) PMF、子どもの文化芸術体験事業 サッポロ・シティ・ジャズ、SIAF2024 ほか 文化芸術振興基金造成費 195,000 文化芸術施設運営管理・整備費 3,350,295 文化芸術施設運営管理費 2,979,295 (事業例) 札幌芸術の森、札幌市民交流プラザ その他の 文化芸術施設の運営管理 文化芸術施設整備費 371,000 (事業例) 芸術の森 その他文化芸術施設の修繕等整備 さっぽろ芸術文化の館の解体 文化財保護・調査費 471,672 文化財保護費 435,672 (事業例) 文化財の保存・普及啓発・維持管理・指定・選定・登録 埋蔵文化財の発掘 文化財施設整備費 36,000 (事業例) 時計台の計画的な保存修理、旧札幌控訴院庁舎 (札幌市資料館)の耐震・保全修繕等

■ 令和6年度予算

(単位：千円)

科	目	当初予算額	事業内容
総務費			
	市民生活費		
	文化芸術振興費	6,029,521	文化芸術振興費 1,081,455 文化芸術推進費 939,455 (事業例) PMF、子どもの文化芸術体験事業 サッポロ・シティ・ジャズ ほか 文化芸術振興基金造成費 142,000 文化芸術施設運営管理・整備費 4,570,895 文化芸術施設運営管理費 3,199,395 (事業例) 札幌芸術の森、札幌市民交流プラザ その他の 文化芸術施設の運営管理 文化芸術施設整備費 1,371,500 (事業例) 教育文化会館、芸術の森 その他文化芸術施設の 修繕等整備 文化財保護・調査費 377,171 文化財保護費 326,171 (事業例) 文化財の保存・普及啓発・維持管理・指定・選定・登録 埋蔵文化財の発掘 文化財施設整備費 51,000 (事業例) 時計台の計画的な保存修理、旧札幌控訴院庁舎 (札幌市資料館)の耐震・保全修繕等